

第3回 神奈川県地方創生推進会議 分科会における意見

基本目標1 県内にしごとをつくり、安心して働けるようにする

| 中柱 | 小柱 | 発言内容 |
|--|----------------------------|--|
| (1) 将来の経済を担う産業創出 | ① 成長産業の創出・育成 | 再生医療、未病産業の取組みについて、最先端医療技術の発信や画期的な産業の誘致を行うことが必要。 |
| | | 交付金は永久的に続かないので、自立的に運営できる仕組みづくりが重要である。また、特区にすれば毎年交付金がもらえるようなものなので、全県特区と地方創生を結び付ける工夫が必要。 |
| | | 特区やライフイノベーション、ロボット産業をベースに、周辺への派生を図れるようなものづくりの支援が重要である。 |
| | | 介護の労働条件を整えるために介護ロボットの導入が必要。 |
| | | 製造業の強い地域で、未病やロボット産業を展開していくことによって製造業がさらに伸びる可能性がある。 |
| | | 雇用を生む観光産業の創出が重要。 |
| | ② 企業誘致などによる産業集積の促進 | 労働生産性を向上させている企業を選定して、好事例としてノウハウを県でパッケージ化し、企業へ提供することが必要。 |
| | | 企業誘致だけでなく、定着や流出防止も必要。 |
| | | 立地コストが多少高くても神奈川の立地のよさを再認識してもらい、企業誘致を行うことが必要。 |
| | | 経営者の高齢者化による事業継承への取組みを行うべき。 |
| (2) 農林水産業の活性化による担い手の確保 | ① 県民ニーズに応じた農林水産物の生産支援と利用促進 | 三浦半島や県西地域などで、未病とからめてCCRC事業の展開が望めるのではないかと。都心の孫とのも気軽に会える距離であるというのも強みである。 |
| | ② 新たな担い手の確保 | 法律の枠組みがあり制約があるが、介護の仕事の効率性の向上が重要である。 |
| (3) 一人ひとりが輝きながら働ける雇用の創出 | ① 産業を支える人材の育成 | 観光農業の取組みや地産地消の促進によるブランド化、ロボットの活用による大規模化や自動化により、農業の発展を促していくべき。 |
| | ② 就業支援の充実 | 農業を子育てしながらやっていけるような持続可能なものにして、農業の魅力を広めてくべき。 |
| | | 農業の後継者対策が必要である。 |
| | | ものづくりの魅力を発信して、後継者不足の対策をする必要がある。 |
| | | 女性活用推進の一環として、慢性的な人手不足の業界へ女性の参画を推進する視点も大切である。その際は女性が参画しやすい工夫が必要である。 |
| | | 非正規労働者を正規労働に近づけることは婚姻率の上昇にもつながるので、正規労働への支援をする必要があるのではないかと。 |
| | | 起業するエネルギーにあふれている女性は多く、起業支援が必要。 |
| | | 短時間勤務など多様な働き方を支援すべき。 |
| | | 女性、障がい者、高齢者などの潜在的な労働者の活躍のため、テレワークを推進することが重要である。 |
| | | 雇用する側は、コストばかりを重視するのではなく、雇用される側が「私でも働ける」と思える制度や人づくりをする必要があるのではないかと。 |
| 業種によって働けない人の活用のため、女性が働きやすいように工場の近くに保育所をつくるなどの工夫が必要である。 | | |
| 就労人口も減っていくなかで、今後働く場を拡大していく際には、人材をどう使っていくかという視点も必要である。 | | |
| 給与だけでなく働きやすさをPRする取組みを地域全体で行うべき。 | | |
| また、ワークライフバランスを考慮する企業への税制優遇や残業をさせた企業への「罰金」制度などについて特区を活用して導入できないか。 | | |
| 子どもを育てたいと思える場所に仕事があったり、会社と家が遠くても働ける仕組みづくりが重要ではないか。 | | |

基本目標2 神奈川への新しいひとの流れをつくる

| 中柱 | 小柱 | 発言内容 |
|--|--|--|
| (1)「観光立県 かながわ」の実 現 | ①新しい観光 魅力づくり | 神奈川県は羽田空港に船を接岸出来る認可を得ていたため、羽田から横浜まで輸送できる環境を活かすべき。 |
| | | 誘客のためには、外国人のニーズを把握し、商品化することが重要。 |
| | | 高級旅館に泊まるような外国人リピーターやの日本文化に対する関心の高い“中の上”の外国人の需要をしっかりと取り込むことも重要。 |
| | | 神奈川県が支援し、各自治体が主体となって、滞在型、体験型の観光コンテンツを整備する必要がある。 |
| | | 海際の活性化については、海の魅力やマリンスポーツを楽しく環境など、地元住民やサーファー等、地域に関わる主体によって異なることから、複眼的な視点で検討することが必要。 |
| | | 交通整備を行うのであれば、官民連共同の協議会を設置し、民間にとって投資意欲が沸くような案件形成が出来ることが望ましい。つまり、地域に対するベネフィットだけでなく民間のコスト補てんの仕組みも考えるべき。 |
| | | 路線バスと組み合わせた、観光輸送特化型の輸送を検討すべき。 |
| | | オリンピックを契機に、三浦半島へのアクセスを向上させるため、相模湾にシーレーンを整備し、誘客に向けた動線つくるべき。 |
| | | 江ノ島から江ノ島電鉄で鎌倉にアクセスし、そこから船で三浦半島にアクセスするような、回遊ルート（シーレーン）をうまく繋げていくことが重要。 |
| | | 自然環境に配慮した宿泊施設やシーレーン、マリーナの整備が必要である。 |
| 東京圏としての神奈川県の魅力をいかして、神奈川県だけで完結しないインバウンドを考える必要がある。 | | |
| (2)地域資源を 活用した魅力 づくり | ①県西地域活 性化プロジェ クトの推進 | 医療的アプローチも重要だが、生きがいがあれば、病に倒れても復活できる。これらは未病という概念にも含まれるだろう。長い戦いかもしれないが、道筋を付けることが重要 |
| | ②三浦半島の 資源を生かし た地域の活性 化 | 三浦半島からみると東京は近い。三浦半島は交通面が解決されれば十分に訴求力が高まる。 |
| | 神奈川は鎌倉幕府も含めて素晴らしい地域の歴史を把握してPRすることは、インバウンドにも効果がある。 | |
| | 宿泊施設が極端に少ない三浦半島で、宿泊型観光を考えた場合、民泊のような小規模な宿泊施設をうまく組み合わせるとが重要。 | |
| | ③地域のマグ ネットとなる 魅力づくり | 魅力発信をどのように工夫するかがポイントである。マグカルなど、地域の魅力との繋がりをどのように設けていくかが重要である。 |
| | | 最近では下町の飲食街に若者が集まるということがある。そのような魅力を作り込み、人を呼び込むことが出来るのではないか。 |
| | | 利便性だけではなく、暮らしの場を自ら選ぶということが重要である。 |
| | | 都心から離れた環境のよい地域を住まいとし、朝6時の電車で東京に通勤する、そのような生活スタイルには強烈なニーズがある。 |
| | | 湘南の夏を海の家がある期間に限定せず、長期的に捉えることで落ち着いたビーチカルチャーが醸成できるのではないか。 |
| | | 箱根湯本は、昼間は賑やかだが、夜になるとシャッター街になってしまう。NPOと連携して、夜まで“まちを開けておく”努力をまちぐるみで行えば、良いスポットになる。 |
| 回遊性のある観光エリアをつくって観光客を呼び込む必要がある。 | | |
| 各地域の魅力は何かを見直すことから始める必要がある。 | | |
| グリーン車やロマンスカーでの快適な通勤のニーズもあり、交通輸送を単なる移動手段として「量」をとらえるだけでなく「質」の向上にも着目していくべき。 | | |

基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

| 中柱 | 小柱 | 発言内容 |
|------------------|-----------------------------|---|
| (1)男女共同参画の推進 | ①誰もが個性と能力を發揮できる社会づくり | 企業の女性活用の取組みを広げていく必要がある。 |
| | | 女性活用やワークライフバランスを考えている企業を優遇支援し戦略的な誘致に取り組む必要がある。 |
| | | フリーランスや在宅勤務、正社員からのフリーランスへの転身、男性のフレキシブルな働き方など夫婦が効率的に収入を得られる成功モデルを県が支援し、「楽しく出産して働くことができる」ことを子ども世代に見せる必要がある。 |
| | | 女性が仕事だけでなく、政治や県や市町村などの意思決定にかかわれるように、女性の参加比率を上げ、子育てしている人たちの声を直接議会などに反映させることが必要。 |
| | | 妊娠適齢期を含むライフデザイン教育を、女性だけでなく男女ともに各発達段階で実施し、啓蒙していく必要がある。 |
| | | NPOなどで地域にコミットした就業などのロールモデルの普及なども含めた、20～30代に非正規雇用で過ごした人への対策が必要。 |
| (2)子育てを応援する社会の実現 | ②仕事や子育てや介護を両立できる環境づくり | 男性が「大黒柱」という価値観を変える必要がある。 |
| | | 仕事と子育てを両立するための環境整備として、駅前のサテライト保育園や企業のサテライトオフィスの誘致を検討する必要がある。 |
| | | 女性の稼ぎや男性の家庭力を上げるには、企業の考え方を变えて、働き方改革を行い、ワーク・ライフ・バランスの子育て支援をする仕組みが必要。 |
| | | 20代、30代が出産適齢期ということを企業の側も知る必要がある。 |
| (2)子育てを応援する社会の実現 | ①子ども・子育て支援と結婚から育児までの切れ目ない支援 | 地域での子育て相談カフェや高齢者の食事会・レクリエーションの地域の担い手育成が必要。 |
| | | 地域の人が子育てに参画できる仕組みづくり。 |
| | | 地域にあった結婚しやすい環境を整えていくことが必要である。 |
| | | 妊娠から出産まで、特定の保健師などがしっかりと関わり、問題などを早期に発見し、必要に応じ各関係機関へつなげていく取組みが重要である。 |
| | | 子育てに悩みを抱える人が集まるカフェのノウハウをマニュアル化したり、そのような取組みをビジネスベースで行ったロールモデルを普及することが必要。 |
| | | 貧困家庭など「ハイリスク家庭」への支援の充実。 |
| | 公立学校の質の向上が非常に重要である。 | |

基本目標4 活力と魅力あふれるまちづくりを進める

| 中柱 | 小柱 | 発言内容 |
|---|-----------------|--|
| (1)交通ネットワークやまちづくりの充実 | ②持続可能な魅力あるまちづくり | <p>ここ10年間で建築した湯河原駅前周辺のマンションは完売したが、25年前に建築した温泉観光地のマンションでは空き家が出ている。住民の高齢化が進み、交通弱者となり、街中に出ることが困難になったことが原因。いろいろな部分で高齢者に対するサポートが必要。</p> |
| | | <p>空き家対策を進めるには、固定資産税制度のあり方など検討が必要。</p> |
| | | <p>空き家を残すのか残さないのかの議論が必要。壊して地域で使える畑にするなどの方法もある。</p> |
| | | <p>空き家を利用したシェアハウスなど、低価格で貸す取組みを推進し、その空間をどう利用するか地域ごとに考えることが必要。</p> |
| | | <p>空き家バンクのような情報サイトを普及させ、若い人が入居しやすい環境を整備する。</p> |
| | | <p>空き家だけでなく、行政施設で活用しきれっていない空間も、目的外使用を含め、社会のニーズに合ったものに変更していく必要がある。</p> |
| | | <p>バスは重要なインフラだが、鉄道駅重視となっている。これからは、病院やスーパーマーケット、役所を中心としてバスを整備し、ハブ&スポークでつなぐためのバスのターミナルがあると、駅から遠くても住みやすいまちをつくることのできるのではないか。</p> |
| | | <p>神奈川の新たな魅力は、圏央道などインフラの整備が重要。</p> |
| | | <p>通勤に使う鉄道については、量だけではなく質も重要な問題である。</p> |
| <p>「活力と魅力あるインフラづくり」には、交通網という視点で、鉄道だけでなくバスも含めるべき。</p> | | |
| (2)地域コミュニティの活性化 | ①地域コミュニティ活性化の促進 | <p>地域包括ケアも含めて提供する地域そのものをCCRCにしていくことが必要。</p> |
| | | <p>CCRCを検討する中で、自治会や町内会を活用する新たなケースを考える必要がある。</p> |
| | | <p>CCRCを推進するためには、構想段階から、それぞれの地域の実情を反映させるビジョンを作成することが必要。</p> |
| | | <p>CCRCは、都内に孫がいて、会いたいときは電車に乗ってすぐ行けるという点で、横須賀や小田原周辺などはチャンスがある。</p> |
| | | <p>県や国が町内会の活動を行う有償ボランティアの仕組みを作ることにより、エリアマネジメントが可能となり、地域が活性化する。また、小学校区くらいの単位で、「そのエリアを専門にマネジメントする」新しい職業を担っていくエリアマネージャーや若い人の自治会等への参加をサポートする仕組みを指導するエリアマネージャー等が必要。</p> |
| | | <p>町内会も消防団も素晴らしい組織だと思うが、今は衰退している。これをうまく生かしていく必要がある。</p> |
| <p>全国の中でも留学生が多い神奈川に残って働こうという人も増えている。彼らを人的資源として活かす場を提供する。 「留学生の観点から見た神奈川の魅力」を留学生が現地の言葉で伝えることが、人をひきつける。</p> | | |
| 総論 | | <p>インフラ整備とコミュニティーづくりは、分けて整理する必要がある。</p> |
| | | <p>魅力も課題も地域ごとに異なるので、1つの方向性ではなく、地域ごとの方向性を設定し、まちづくりを進めていくべき。</p> |